

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社オペラシアターこんにゃく座
公演団体名	オペラシアターこんにゃく座

内容
<p>事前に「森へ向かうソリの歌」「十二月の歌」の楽譜と音源を渡し、音楽の授業やホームルームなどの時間に練習、また校内放送などをしていただき、曲に親しんでいただきます。当日は、本公演で共演する場面の指導を中心に行ないます。</p> <p>1／劇団紹介をしつつ、劇団名の由来となっている「こんにゃく体操」を行ないます。 2／「オペラ」とはどのようなものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて説明します。 3／本公演で児童生徒に参加してもらおう場面がどのような場面なのか、『森は生きている』の物語の流れを説明し、また、どのように出演するかの説明と、実際に体を動かしながら「森へ向かうソリの歌」、そしてアンコールで歌う「十二月の歌」の練習を行ないます。 4／このワークショップを経て興味を持ったことの発表、また疑問として残っていることなどを質問する時間も設けます。</p>

タイムスケジュール（標準）
上記 1／約15分 → 2／約15分 (休憩10分) 3／約40分 → 4／約10分 計90分

派遣者数
指導者 3名
スタッフ 0名
合計 3名

学校における事前指導
<p>1／音楽の授業などで「森へ向かうソリの歌」「十二月の歌」の練習をしてもらいます。 2／給食の時間や校内放送の時間などを使い音源を流してもらい、子供たちの耳に歌がなじむ機会を作ってもらいます。 3／マツユキ草を本公演当日までに児童生徒ひとりひとりに作製してもらいます。 4／学校の図書館に「森は生きている」の図書があれば生徒に紹介し、物語の流れをご説明下さい。</p>

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	有限会社オペラシアターこんにゃく座
公演団体名	オペラシアターこんにゃく座

<b>演目</b>
オペラシアターこんにゃく座公演 オペラ『森は生きている』

<b>派遣者数</b>
出演者 13名
スタッフ 6名
合計 19名

<b>タイムスケジュール（標準）</b>									
【午後公演】の場合									
8:00				12:00	13:00	13:15		15:10	16:40
到着	搬入	設営	稽古	昼食	開場	公演	終演 撤去 搬出	退出	
【午前公演】の場合									
7:00	10:05	10:20		12:15	13:15	15:00			
到着 設営	搬入 稽古	開場	公演	昼食	撤去 搬出	退出			
*午前公演の場合は、前日に仕込（搬入・設営3時間程度）をさせていただく場合があります。									
*開場・開演時刻は目安です。各校の授業時間に合わせ調整します。									

<b>実施校への協力依頼人員</b>
1 / <u>ピアノがステージ上にある場合は、ピアノをフロアへ下ろします。</u> <u>男性の先生を中心に5名ほどお手伝い下さい。</u>
2 / 体育館が2階以上の場合、可能であれば搬入・搬出の協力を5名ほどお願いします。

## 演目解説

森へたきぎ拾いに来た働きものの娘は、偶然出会った兵士から不思議な話を聞いた。それは大晦日、森でひそかに交わされる「時」をめぐる十二の月の精の秘めごとだ。

いっぽう宮殿では、今日も女王が家庭教師である博士を困らせている。気まぐれな女王が、真冬にもかかわらず四月に咲くマツユキ草をほしいと言い出したのだ。褒美の金貨に目のくらんだ欲深い継母と姉娘のいいつけで、吹雪の森に分け入った娘は、そこで十二の月の精たちと出会う。

娘から事情を聞いた「四月」の精は、他の月たちに頼み、一時間だけ「時」をゆずってもらう。冬から春へたちまち季節はめぐり、なんと娘の前にマツユキ草が！

家で待ちかまえていた継母たちは、帰ってきた娘からマツユキ草を取り上げ、「四月」の精が娘に贈った指輪をも横取りすると、いそいそと褒美を受け取りに宮殿へ。だが、事の顛末を女王に問われ、答えに窮した継母と姉は、ついにありのままを白状。奪った指輪は女王の手へ。

女王は、遠乗り会よろしくソリを走らせ、家来全員を連れ森へと向かう。娘にマツユキ草はどこで摘んだのかと迫るが、決して人には話さないという「四月」の精との約束に、固く口をつぐむ娘。それに腹を立てた女王は、指輪を雪のなかへと放り投げてしまう。それが秘密のカギだった。

あたり一面に咲くマツユキ草。しかしそれは一瞬にして消え、驚く女王たちの目の前で季節が次々と移りかわっていく。そしてあたりはふたたび真冬の森へと元通り。凍えて森をさまよった女王は、森という自然の大きな力のなかで、自分が一人の人間でしかないことを思い知らされる。女王は人に命令するだけではなく、「お願いする」ということを初めて知る。

大きく成長した女王と娘は、親友になることを誓い、ともに帰っていき、十二の月たちは、また「時」を紡ぐ旅へと旅立っていく。

サムイル・マルシャーク原作の「森は生きている」は、日本では1954年劇団俳優座の初演から50年以上もの間、舞台上で親しまれている作品です。初演の舞台に林光が劇音楽として作曲した曲は、多くの人に歌われ続け、本作品をこんにやく座がオペラ化したのが1992年。以来全国各地で子供から大人まで幅広い層のお客様に鑑賞されています。

「時の不思議」や「人と人とのつながり」、「大自然の奥深い営み」といった深いテーマを含みながらも、さまざまな仕掛けが繰り広げられ客席からは絶えず笑いがあふれる舞台。林光の豊かな音楽が12人の歌役者、1人のピアニストによって繰り広げられ、あたたかさや元気をもたらすオペラです。

厚生省（現厚生労働省）中央児童福祉審議会推薦 平成10年度推薦文化財  
第18回三菱UFJ信託音楽賞奨励賞

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 1 / 「森へ向かうソリの歌」を本番中に出演者と一緒に歌い、ソリに乗って森へ向かう様(さま)を演じてもらいます。
- 2 / 十二の月の精たちがマツユキ草を咲かせる場面において、児童生徒が事前準備として作ったマツユキ草を、会場一面に一斉に咲かせてもらいます。一面に咲いたマツユキ草は舞台効果を高め、舞台と客席が一体となる体験を得られます。
- 3 / 事前練習した「十二月(じゅうにつき)の歌」をカーテンコールで出演者と一緒に歌ってもらいます。歌詞カードを用意し、児童生徒がよりのびのびと歌えるように工夫していきます。

### 児童生徒とのふれあい

- 1 / 学校側の要望に応じ、設営や片付け時の見学が可能です。
- 2 / 給食の時間を出演者・スタッフと一緒に過ごすことで、舞台を観るだけでなく出演者とのふれあいの時間を持つことが可能です。(スケジュールなどで不都合な場合がありますので相談下さい。)